

## (史料紹介) 明治前期豊橋での漢学講義史料

田 崎 哲 郎

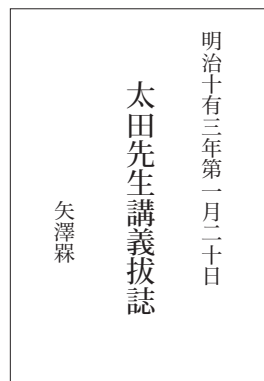
矢澤梅太郎については、その史料を二回活字化している。「矢澤梅太郎の日記」(『愛大史学』十六号 二〇〇七年 以下『日記』)と「浅井常三から矢澤梅太郎宛書簡等」(愛知大学総合郷土研究所紀要』第五三輯 二〇〇八年)の二点である。矢澤についての概略はそれらの頭初に述べてあるが、若干言及すると矢澤は島崎藤村の『破戒』の主人公瀬川丑松が師と仰いだ猪子蓮太郎のモデルと言われる大江磯吉の勉学を援助した人物として、特に長野県では知られている。矢澤の出身は長野県下伊那郡下殿岡村(現飯田市下殿岡)で、大江の家はその隣りにあった。矢澤は文久元年(一八六一)十二月二七日生れ、明治八年(一八七五)一月知止小学を卒業、明治十年五月飯田第一番小学校飯田学校上等科を卒業、明治十一年後半頃迄の間かと思われるが豊橋へ出て、旧吉田藩医だった浅井家に入門、当代の常三の門人となっている。来豊がどのような経緯によるのかは分からない。常三は鈴木春三・箕作阮甫門下で、父弁庵と並んで当地の蘭方医として地域では知られていた。豊橋での勉学の様子は『日記』である程度窺える。浅井家では医学知識の習得も見られるが、第一は藩儒だった太田晴軒(錦城の子)の子の成之についての漢学学習だったようだ。そのことを示すのがこの史料である。「明治十有三年第一月二十日」と表紙にあるので、その日からのものであろうが、それ以前にも講義を受けていたかもしれない。

内容は講義を受けた漢籍の中の難解な語句の読みや意味を、書き抜いたものである。当地の漢学塾での講義の具体像は余り知られていないようなので、その様子をいくらか知りうる手懸りにもなるかと思われる。そこに出てくる書名には、『古文真寶』、『毛詩』(詩経)、『論語』、『十八史略』、『文章軌範』、『日本外史』などが挙げられている。矢澤の豊橋での勉学は、医学よりも漢学の学習水準の向上にあったといえよう。

矢澤は明治十三年五月二二日に浅井家を辞して帰郷、九月から東京で生活を始め、克己塾などの予備校を経て、明治十五年頃医科大学別科に入学、明治十九年五月に医科大学別科を卒業している。卒業後生家の下殿岡村六三番地に帰り、医院『尚天堂』を開業したが、明治二十七年五月九日に、三四歳で結核で亡くなっている。

史料の閲覧を許可された矢澤尚氏に謝意を表します。

[史料]



(本文)

太田先生講義抜誌

(二一〇)

魁本大字諸儒箋解古文真寶卷之一 後集

カミ 馮帝<sup>フウテイ</sup>、后土<sup>コト</sup>、蘭<sup>ラン</sup>、素波<sup>ソハ</sup>、簫鼓<sup>セウコ</sup>、  
 ミミ 江潭<sup>カワノ</sup>、憔悴<sup>シヤクスイ</sup>、枯槁<sup>コカウ</sup>、三閭<sup>サンリョ</sup>、  
 三太<sup>サンタイ</sup>、皓皓<sup>コウコウ</sup>、莞爾<sup>ワンニ</sup>、鼓<sup>コ</sup>、柅<sup>エイ</sup>、濯<sup>ソク</sup>、惆悵<sup>チュウテイ</sup>、  
 モゴ 征夫<sup>テイフ</sup>、衡宇<sup>ヘウウ</sup>、僮僕<sup>ドウボク</sup>、三經<sup>サンケイ</sup>、  
 ソウ 聰<sup>ソウ</sup>、寄傲<sup>キカウ</sup>、西疇<sup>セイシュ</sup>、巾車<sup>キンシャ</sup>、已矣乎<sup>イイハ</sup>、  
 コレギ 遑遑<sup>シュウシュウ</sup>、植<sup>ウチ</sup>、東臯<sup>トウオウ</sup>、魁本<sup>ケイホン</sup>、  
 センクワイ 箋解<sup>センケイ</sup>

毛詩 大東七章章八句

セイセイ 凄風<sup>セイフウ</sup>、百卉<sup>ヒャクハイ</sup>、具腓<sup>クイフイ</sup>、亂離<sup>ランリ</sup>、  
 イツク 爰<sup>イ</sup>、發發<sup>ハツハツ</sup>、候<sup>コウ</sup>、廢<sup>ヘイ</sup>、殘賊<sup>ザンゾク</sup>、構<sup>カウ</sup>、  
 イツカコ 曷<sup>カク</sup>、云<sup>ウン</sup>、滔滔<sup>タウタウ</sup>、江漢<sup>カウカン</sup>、紀<sup>キ</sup>、墨<sup>モク</sup>、  
 タン 鶉<sup>チュウ</sup>、翰<sup>カン</sup>、鱣鮪<sup>サンソク</sup>、蕨薇<sup>ケツビ</sup>、杞<sup>キ</sup>、  
 ノボル 携<sup>ケイ</sup>、陟<sup>シツ</sup>、偕偕<sup>ケイケイ</sup>、子士<sup>シ</sup>、靡<sup>ミ</sup>、監<sup>カン</sup>、溥<sup>フ</sup>、  
 ソツ 天<sup>テン</sup>、率土<sup>ソツト</sup>、四牡<sup>シボウ</sup>、彭彭<sup>ヘンヘン</sup>、  
 セイ 息<sup>ソク</sup>、偃<sup>エン</sup>、抑<sup>ヨク</sup>、擗<sup>ヘキヤウ</sup>、仰<sup>オウ</sup>、  
 タンラク 、湛樂<sup>タンラク</sup>、風議<sup>フウギ</sup>、將<sup>ヤウ</sup>、祗<sup>ケイ</sup>、疢<sup>ケン</sup>、  
 ヌホフ 離<sup>リ</sup>、重<sup>ジュウ</sup>

(二一一)

論語卷之一

キヤウタイ 驕<sup>キョウ</sup>、泰<sup>タイ</sup>、異端<sup>イタン</sup>、楊墨<sup>ヤウモク</sup>、所以<sup>ソノユ</sup>、天爵<sup>テンキョク</sup>、  
 ジンシャウ 人爵<sup>ジンキョク</sup>、顔閔<sup>ガンミン</sup>、淡冶<sup>タンゲ</sup>、流蕩<sup>リウダウ</sup>、因仍<sup>インエイ</sup>、  
 ヲウシヨ 苟且<sup>コウジ</sup>、磋<sup>ソ</sup>、鶩<sup>ウ</sup>、御<sup>ゴ</sup>、科<sup>カ</sup>、指<sup>シ</sup>、三家<sup>サンカ</sup>、  
 テイ 體<sup>テイ</sup>、曾<sup>ソウ</sup>、愉色<sup>ユシキ</sup>、

(二一二)

毛詩 無將大車三章章四句

キウヤ 芄野<sup>ケンヤ</sup>、初吉<sup>シュキツ</sup>、離<sup>リ</sup>、涕零<sup>テイジヨウ</sup>、罪罟<sup>ズイソ</sup>、  
 ジョ 除<sup>ジョ</sup>、  
 シキウチ 睽<sup>ケイ</sup>、  
 コス 鼓<sup>コ</sup>、鐘<sup>シュウ</sup>、將<sup>ヤウ</sup>、將<sup>ヤウ</sup>、湯<sup>トウ</sup>、淑人<sup>シュクジン</sup>、允<sup>オン</sup>、  
 カイ 啞<sup>ヤ</sup>、  
 ケイ 磬<sup>ケイ</sup>、  
 ヒ、蕪<sup>ウ</sup>、言<sup>ゴン</sup>、濟濟<sup>ケイケイ</sup>、踳踳<sup>クワンクワン</sup>、

論語卷之一 爲政第二

ジツセイ 十世<sup>ジュウセイ</sup>、  
 センホ 識<sup>シキ</sup>、  
 ジヤウケイ 常經<sup>ジョウケイ</sup>、  
 ツ子ノ、  
 カミ 鬼<sup>ミ</sup>

古文賦類

カギ 賈誼<sup>カギ</sup>、  
 シヤウ トシ 葺<sup>キ</sup>、  
 インノ 諡<sup>シ</sup>、  
 フカキ 物<sup>モノ</sup>、  
 ツナグ 係<sup>ケイ</sup>、  
 オモムク 走<sup>ソウ</sup>、  
 セウラン 椒蘭<sup>セウラン</sup>、  
 シン 參差<sup>サンサ</sup>、  
 ア 啞<sup>ア</sup>、

(二一三)

十八史畧

セウテイ 攝提<sup>セウテイ</sup>、  
 ヒ 皮<sup>ヒ</sup>、  
 チ 地維<sup>チ</sup>、  
 ライ 采<sup>ライ</sup>、  
 フ 始<sup>フ</sup>、

(二一四)

毛詩 卷阿十章六章五句四章章四句

マタ 亦<sup>マタ</sup>、  
 センズン 柔<sup>ジュウ</sup>、  
 ヌ 卜<sup>ウ</sup>、

論語卷之二

ハツウ 八佾<sup>ハツウ</sup>、  
 マサル 愈<sup>ユ</sup>、

毛詩 民勞五章章十句

ハンバン 板<sup>ハン</sup>、  
 ナム 匱<sup>ケイ</sup>、  
 コー 一<sup>コ</sup>、  
 タム 王<sup>タム</sup>、

(二一五)



